

学校関係者評価報告書

学校法人鶴嶺学園

神奈川社会福祉専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人鶴嶺神奈川社会福祉専門学校、学校関係者評価委員会は平成 30 年度自己点検評価報告書の結果に基づき学校関係者評価を 令和元年 6 月 24 日に実施したので下記のとおり報告します。

1. 学校関係者評価委員会 出席者

| 名 前 | 所 属 |
|--------|--------------------------|
| 竹内 圭介 | (学) 鶴嶺学園 副理事長 |
| 境野 勝久 | 道塾慶陽館 主宰 |
| 川口 英一 | (学) 鶴嶺学園 神奈川社会福祉専門学校 校長 |
| 柳下 伸 | NPO 法人 トータルライフサポートクラブ 会員 |
| 林 茂 | (学) 鶴嶺学園 事務局長 |
| 菊池 恵理子 | 社会福祉法人 恵伸会 |
| 武田 七郎 | 社会福祉法人 浦和福祉会 理事 |

2. 実施方法、公表

学校関係者評価の実施に当たっては、年度末に実施した「自己点検評価」を学校関係者評価委員会の皆様にごらんいただき、自己点検評価の各項目に対するご意見と評価を取りまとめました。

評価結果は今後の本稿における教育活動や学生指導の学校運営の改善に活かし教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表します。

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

各評価項目別の質疑意見は以下の通り

| 評価項目（1） | 教育理念・目標 |
|--|---------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学園、学校の理念は変わらないものだが、時代に合わせて目標は変えてゆく必要がある。 ・卒業後、即戦力になる人材の教育を行うこと ・ロゴマークを策定中のこと。セレモニー、ウェディング校にあわせる | |

| 評価項目（2） | 学校運営 |
|---|------|
| <p>サン・ライフグループの法人に加えて、関連 NPO 法人との連携を強化して欲しい（恵伸会、NPO トータルライフサポートクラブ）</p> <p>実習先、就職先としての教員と施設との連携をすすめること。</p> <p>社会福祉科における実習先の確保もあわせて行うこと</p> <p>日本語教育、日本語学科申請も実現させる</p> | |

| 評価項目（3） | 教育活動 |
|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・傾向として学生の基礎学力低下（質の低下）が見られる。 ・教員自身の質の向上のためにも、外部の研修には積極的に出て欲しい ・退学者の防止への取り組みを継続 ・発達障がいなどを持つ学生への対応を、教員研修などを継続して行うように | |

| 評価項目（4） | 学習成果 |
|--|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・退学者、留年者防止への取り組みを継続。 社会福祉科の学生の退学者減少の取り組みも進める。 ・同窓会限定の就職説明会は効果を出している。 ・介護福祉士の国家試験合格率は高位を維持している。 ・ライフエンディングパートナー資格講習の継続を | |

| 評価項目（5） | 学生支援 |
|---|------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・経済的に困難な学生に対する支援(学費の減免)の取り組みの中、奨学金制度も含め、対応が必要 ・高等教育の就学支援制度への学園としての対応を協議するように | |

| | |
|--|------|
| 評価項目（6） | 教育環境 |
| <p>今後も必要な設備の改善は行っていただきたい 日本語学科が設立された際に、外国人学生への対応を進める</p> | |

| | |
|--|-----------|
| 評価項目（7） | 学生の受け入れ募集 |
| <p>少子化、大学進学率の上昇、業界の不人気もあり、高卒者の確保が難しい状況ではあるが、提携校への授業などで、業界の魅力や、就職の有利さを啓蒙してゆくことも大事。また、18歳人口に頼らない既卒社会人の取り込みも急務の案件である。</p> | |

| | |
|---|----|
| 評価項目（8） | 財務 |
| <p>学生数減少に伴う収入の減少は避けられない。学費未収の防止、退学者の防止に継続して努めるように。18歳人口だけでなく、県の委託事業などの社会人とりこみ対策もあわせて考えること。NPO 法人との協同で社会人向けの講座など、積極的に進める必要がある。</p> | |

| | |
|---------------|-------|
| 評価項目（9） | 法令の遵守 |
| <p>特に問題なし</p> | |

| | |
|--|-----------|
| 評価項目（10） | 社会貢献・地域貢献 |
| <p>学園祭での学園開放や、地域へのボランティアに今後とも積極的に取り組むように。 地域福祉団体への寄附も継続して行う方向で。 日本語学科の設立に向けた活動について、許認可を取得できるように進めること</p> | |

総評

上記10項目に対し、委員による評価を行った。継続的に調査を行い、学校運営の質の向上を図ってゆく。

また、職業実践専門課程取得校として、学校の独自性、優位性を維持し、広くアピールして行くことも求めたい。現場のニーズを重視したカリキュラム編成や校外実習など学生の実践力向上に対する取り組みを、業界の情勢を鑑みながら続けてゆくこと。あわせて日本語学科の設立準備を進めるように。

以上